

第5学年 国語科の実践

- 1 単元名 自分の考えを明確にしながら読もう
教材名 『ゆるやかにつながるインターネット』 筆者 池田謙一

2 単元目標

- ◎筆者の考えを理解し、それに対する自分の考えをもち、発表し合って広げたり深めたりする。
- ◎話し言葉と書き言葉との違いに気づく。
- 目的や意図に応じて書く事柄を収集し、自分の考えが伝わるように文章を書く。

3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

まずは自分なりの考えをもつことの大切さを伝え続けるとともに、考える時間を確保することを心がけてきた。

聴く・話すことに関しては、「まずは聴く」ことの大切さを指導してきた。また、教師の発問や友達の考えに対して黙って聴いているだけではなく、自分の考えと比べながら聴いたり、わからないことを訊き返したり、思ったことを伝えたりするよう促している（「聞く」から「聴く」・「訊く」へ）。友達の考えに対するあいづちやよいつぶやきを取り上げたり褒めたりすることを心がけた。「うまく表現しようとしなくてよい」「教室は間違えてもよいところだ」ということを常に確認しながら、自分の考えを自分の言葉で表現することを促している。

関わり合い・ひびき合いに関しては、わからないことをペアやグループで教え合ったり、友達の意見がわかりにくかったときには言い換えさせたりすることで、関わり合いが見られるようになってきた。友達の考えを大切に、ノートに記す子どもも増えてきた。

4 単元と指導

①単元について

本単元は、教材文を読み、筆者の考えを読み取った後に、自分の考えを話し合ったり、コミュニケーションの手段について自分の考えを書いたりするという構成となっている。

インターネットに関する子どもたちの経験は、検索機能などを用いた調べるためのものが多く、双方向性のコミュニケーションの道具としての使用は少ないため、子どもたちにとってやや抽象度が高い話題であると思われる。そのため、筆者は身近なこととして考えられるように、随所に具体例を挙げたり、「あなた」という言葉を多用して読み手に問いかけたりしている。また、インターネットのプラスの面とマイナスの面の両方を取り上げることで、インターネットによるコミュニケーションの本質を分かりやすく説明し、説得力を増している。こうした巧みな叙述の効果や文章の構成を考えさせることにより、筆者の考えをしっかりと読み取らせたい。

また、「人とのつながりをどのように大切にしていくか」というテーマも抽象的である。自分の身近な例に置き換えながら考えさせたり、具体例を補わせたりすることで、子どもたちの日常生活と関わらせて自分なりの考えがもてるように支援していきたい。

②指導について

【切実な問題について】

この単元に入るにあたり、インターネットに関する子どもたちの実態を把握するためアンケートをとった。その中で、「インターネット機能を使って、困ったことがある」と答えた子どもはほとんどいなかった。しかし、携帯電話やスマートフォンを持っている（使っている）子どもはそれなりにいて、便利さや楽しさは感じている。教材文を読んで、インターネットの特徴（双方向性）や危険性について初めて知った子どもがほとんどであり、危険性についてきちんと理解し、活用できるようになりたいという思いが子どもたちの中に生まれた。家族や身近な人の経験談やインターネットに詳しい子どもの話に触れ、インターネットの危険性について理解を深めた上で、人とのつながり方について考えることは子どもたちにとって切実な問題になると考えた。教材文を読み進めていく中で、筆者の言う「人とのつながりを大切にする」ということにはもちろん異論はないが、「大切にするにはどうすればよいか」という問題が生まれている。

【ひびき合いについて】

本時では、「人とのつながりを大切にするにはどうすればよいか」というテーマで自分の考えを伝え合う。テーマが抽象的であるため、まだあまり深く考えられていない子どもも多く、友達の考えを聴いてみたいという思いがある。話し合いを通して、「なるほど」「そういう考えもあるのか」という思いをもったりつぶやいたりする姿が見られるとよい。また、自分なりの考えをもっている子どもも、話し合いを通して自分の考えに自信をもったり、友達の考えに影響を受けて自分の考えを広げたり深めたりすることができるとよい。そうした姿を「ひびき合い」の姿としたい。そのためにも、板書を整理し、子どもたちの思考の助けとなるように努めていきたい。

5 単元構想 第5学年国語科 自分の考えを明確にしながら読もう

『ゆるやかにつながるインターネット』 【8時間】

単元 目標

筆者の考えを理解し、それに対する自分の考えをもち、発表し合って広げたり深めたりする。

『見立てる/生き物は円柱形』

○文章の書かれ方や文章構成に着目し、
要旨を捉える

『天気を予想する』

○文章構成、図・表・グラフ・写真の意図を
考え、説明の工夫を捉える

各教科において

○インターネットを活用した調べ学習の
経験

保健の学習

○インターネットの安全な使い方につ
て知る

日常生活において

○インターネットや携帯・スマホを使った
経験

○家族の経験

○ニュースなどから得た知識

「ゆるやかにつながる」ってどういうことかな ①

- ・インターネットについての説明文だな
- ・つながるのが遅いってことかな？
- ・学校のインターネットは家のよりつながるのが遅いよ

本文を読んでみよう

「強いつながり」と「ゆるやかなつながり」は、どう違うのかな ①

- ・「ゆるやかなつながり」という言葉は何回も出てきたね
- ・「つながり」って、人とのつながりのことなんだね
- ・「ゆるやかにつながる」って、スピードのことじゃないんだ
- ・自分にとっての「強いつながり」って何だろう
- ・「ゆるやか」は悪いイメージじゃない

筆者はインターネットを悪いイメージでとらえていない

インターネットのよい点や注意点は、どんなところだろう ①

- ・調べ物をするときは、インターネットが便利だね
- ・知恵袋でアドバイスがもらえるよ
- ・インターネットを使っていることはあまりないけど
- ・インターネット詐欺についてニュースで聞いたことがあるよ

筆者はなぜ、よい点だけでなく、注意点まで挙げているんだろう

筆者の伝えたいことは何だろう ①

- ・つながりが築けることはすばらしいと筆者は考えている
- ・インターネットをどう使うかが大切といっている
- ・筆者は例を出して説明しているから分かりやすい
- ・わたしは納得できる

わたしは、インターネットをどう使っていけばいいのかな

みんなの考えも聞いてみたい

人とのつながりを大切にするにはどうすればよいかな ② 【本時 2/2】

- ・今までは調べ学習にしか使っていなかったけど、これからは…
- ・悩んだり困ったりしたときに同じ立場の仲間を見つけてみたい
- ・危険性を理解した上で人とつながっていききたい

人とのつながりについて、いろいろな考え方が

クラスの中にもあるんだな

意見文を書こう ②

- ・友達の考えを聞いてなるほどと思ったよ
- ・友達の考えも参考に、自分の考えをまとめ直そう
- ・読む人に語りかけるように書くぞ
- ・長所と短所がうまく伝わるように書こう

・題名読みをすることで、
興味をもって読み進めら
れるようにする

・マッピングを活用したり、
身近な例に置き換えたり
して、理解を促す
・対比関係が明確になるよ
うに板書を工夫する

・事例の中に問題点や危
険性などを取り上げてい
る意図を考えさせる
・問題点については説明
を加え、理解を促す

・文章構成に着目し、
筆者の主張を捉えら
れるようにする

・自分の考えをしっかりと
もって伝え合えるよう
に時間を保証する

・筆者の書き方の工夫を
参考にさせる(掲示物)

・大切なのは相手のことを
考えて伝えることだと気
づかせたい

6 本時について

(1) 本時目標 人とのつながりを大切にするにはどうすればよいかという観点に沿って話し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。

(2) 本時展開

学 習 活 動	主な支援・留意点【評価】
1 本時のめあてを確認する。 人とのつながりを大切にするにはどうすればよいかという観点に沿って話し合い、自分の考えを広げたり深めたりしよう。	
2 少人数で考えを伝え合い、自分の考えを確かなものにする。	・話し合いが苦手な児童もいるため、まず少人数（2～3人）での伝え合いをすることにより、抵抗を減らすようにする。
3 全体で考えを伝え合い、話し合う。 ・悩んだり困ったりしたときに、インターネットを通じて同じ立場の仲間を見つけてみたい。 ・人を傷つけるようなことや無責任なことはしないように気を付けたい。 ・インターネットの危険性を理解した上でインターネットを活用し、いろいろな人とつながっていききたい。 ・行き違いがあっても怒ったり諦めたりせず、きちんと説明するようにしたい。 ・いろいろな人とつながり、助け合ってつながりを深めていききたい。	・自分の考えとの共通点や相違点を考えながら聴くようにさせる。 ・友達の意見の否定はできるだけしないようにさせる。 ◆進んで自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞こうとしたりしている。【関心・意欲・態度】 ◆相手に分かりやすい話し方で話したり、自分の考えと比較しながら聞いたりしている。【話す・聞く】
4 話し合いの振り返りをする。	

7 実践を終えて

○切実な問題・ひびき合いについて

教材文の題名にある「ゆるやかにつながる」とはどういう意味なのかを考えるとところから学習をスタートした。子どもたちは、「スムーズにつながる」「いろいろな人とつながる」などプラスのイメージで捉えていた。

教材文を読み進めていくと、「筆者もインターネットを悪いイメージでは捉えていないのに、なぜよい点だけでなく注意点まで挙げているのか」という疑問が生まれた。そこで、アンケートの結果や身近な例も挙げながら、インターネットに関してほとんどマイナスのイメージを抱いていない子どもたちと危険性についての理解を深めていった。注意点について書かれた文がある場合とない場合を比較することで、注意点について書かれた文があると説得力が増していることに気づいた。

筆者の主張である「人とのつながりを大切にする」という問題が次に生まれた。自分なりの考えはもったものの、テーマが抽象的であるためにあまり深く考えられていない子どもも多く、友達と考えを伝え合うことで自分の考えを深めることは、子どもたちにとって切実な問題であったと考える。

自分の考えを伝え合う際には、友達の考えに反応したり、関連させて自分の考えを出したりすることがまだできていなかったのも、ひびき合っているとは言えない状態であった。しかし、自分自身のことを本音で語る子どもの考えには、形だけではなく本心からの反応が見られたので、そうした姿は「ひびき合った姿」と捉えてよいのではないかなと思う。話し合いの後の振り返りからは、自分の考えに自信をもったり、友達の考えに影響を受けて自分の考えを広げたり深めたりすることができた姿を見取ることができた。

○成果と課題

<成果>

- ・身近な例を挙げながら、インターネットの利点や注意点について理解を深めることができた。
- ・一人ひとりが自分なりの考えをもって話し合いに臨むことができた。
- ・自分自身のことを例に挙げて自分の考えを話すことができ、自然な反応が見られた。

<課題>

- ・自分の考えを進んで話し合いの場に出したり、自分の考えをどこで出すべきか出どころを捉えたりすることには課題が残る。
- ・学習のまとめとして意見文を書くことに必然性や切実感をもたせるためには、もっと子どもたちの思考の流れを捉え、工夫する必要がある。